

## 授業展開例（図画工作）

- 1 学 年 第5学年
- 2 題材名 「自分だけの『どこでもドア』」
- 3 題材設定の理由

本題材は、図画工作科学習指導要領第5学年及び第6学年の目標(2)「材料などの特徴をとらえ、想像力を働かせて主題の表し方を構想するとともに、美しさなどを考え、創造表現の能力、デザインや創造的な工作の能力を高めるようにする。」に基づき、内容Aの表現(2)「見たこと、感じたこと、想像したこと、伝え合いたいことを絵や立体に表現したり、工作に表したりするようにする。」から設定した。

ドアとは、本来、一つの部屋から別の部屋、あるいは家の外への出入り口に位置する仕切りである。『どこでもドア』は、今いる世界から、子ども達が夢見る様々な世界へ移動可能な魔法のドアであり、漫画『ドラえもん』に登場する人気アイテムである。漫画のアイテムということで、子ども達も安心して感情移入することができると思う。「自分だけの『どこでもドア』」の制作は、子ども達一人一人の持つ夢や憧れなどの思いを膨らませ、行ってみたい世界や憧れの世界など、自分らしい表現の追求を可能にする題材である。教師の提案する「ドア」というきっかけを基に、そこから先の活動は、子ども達が自分の力で考え、判断し、そして表現するなど、様々な自己決定を期待できる題材でもある。

自分の思いの実現に向けての決定が質の高いものとなるためには、その思いがその子にとって内発的な動機に支えられた夢や憧れ、願いからの「思い」でなくてはならない。一人一人の思いが広がり、また深められるように、導入部での『どこでもドア』の提案場面で、子ども達のイメージが豊かに膨らむような問いかけの場を設定したい。また、子ども達が、思い付いた自分の発想を更に膨らませたり、深めたりしながら、自分のイメージを表現へと具体化するためのいくつかの方法を提示し、必要に応じて選択できるようにする。

さらに、自分の表したい思いの追求に向けて、制作過程において、材料や表現方法を自分で考えたり、選んだりするなどの自己決定の場面を適宜設定したい。

#### 4 題材の目標

ドアの中に広がる世界を見通しを持って、表現することができるようにする。

作りたいものや作りたい世界の感じが現れるように、形や色、材料を選び、工夫して作ることができるようにする。

**○自分や友達の手・発想のよさに気づき、互いに認め合う態度を養う。**

5 題材の評価規準

A 表現			B 鑑賞	
ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 造形への関心・意欲・態度	オ 鑑賞の能力
自分の表したい世界の制作に意欲的に取り組もうとする。表したい自分の思いに応じて、表現方法を試したり、やり直したりしながら表現活動を楽しもうとする。	自分の夢や憧れを基にドアの向こうに広がる世界を発想する。表現する一過程で、形や色、材料の組合せなどによって、計画を見直し、新たな発想を加える。	表したい思いの追求のために、自分の思いに合った材料を選ぶなど、自分なりの表現方法を工夫する。自分の表し方や材料に合った用具を選び、適切な使い方をする。	<b>友達の表現に関心を持ち、自分の表現に生かそうとしている。</b> <b>表したいことを自分達で振り返り、発想の楽しさなどを分かり合おうとする。</b>	いろいろな表し方や材料の組合せによるよさや面白さに気付く。

6 指導計画... 6時間 (本時 第一次 第1時)

次	学習内容 (時数)	評 価					
		造	発	創	鑑	評価規準	評価方法
1	<p>「ドアの向こうの世界を想像しよう」</p> <p>『どこでもドア』の向こうの世界を想像しながら,自分なりの夢や憧れの世界についての思いを膨らませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行ってみたい世界</li> <li>・空想の世界,夢の世界</li> <li>・あったらいいなという憧れの世界</li> <li>・出会いたい人や生き物のいる世界</li> </ul> <p>『どこでもドア』の提案から各自の発想を膨らませ自分だけの『どこでもドア』の構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発想した世界のイメージ</li> </ul> <p>表したい世界 (空間) ドアの形</p>					<p>イ 自分の夢や憧れを基にドアの向こうに広がる世界を発想する。</p> <p>ア 自分の表したい世界の制作に意欲的に取り組もうとする。</p> <p>イ 表す過程で,形や色,材料の組合せなどによって,計画を見直し,新たな発想を加える。</p>	<p>行動観察 (発言)</p> <p>行動観察 (発言)</p> <p>行動観察 (メモ)</p>

1	その世界にあるもの (いるもの) ・材料や色のイメージ (1) 本時 1 / 1				ア 表したい自分の思いに 応じて、表現方法を試 したり、やり直したりし ながら表現活動を楽しも うとする。	アイデアスケッチ 振り返りカード
2	「ドアとその中に表現 するものを作ろう。」 ○自分の思いにあった 材料を選んだり、手や 用具を使って制作す る。 ・材料選び ・色や形決め <b>友達の工夫や面白さ を見つけ、交流する。</b> (4)				ウ 表したい思いの追求 のために、自分の思い に合った材料を選ぶな ど、自分なりの表現方 法を工夫する。  イ 表す過程で形や色・ 材料の組合せなどによ って、計画を見直し、 新たな発想を加える。 ウ 表し方や材料に合っ た用具を選び、適切な 使い方をする。 <b>エ 友達の表現に関心を 持ち、自分の表現に生 かそうとしている。</b>	行動観察 (デジタルカメラ)   行動観察 (デジタルカメラ)
3	「友達の作品のよさや 面白さを見付けよう」 友達の作品のよさや 面白さを見付け、話し 合おう。 ・君のどこでもドア は面白いな。(1)				オ いろいろな表し方や 材料の組合せによるよ さや面白さに気付く。 <b>エ 表したいことを自分 たちで振り返り、発想 の楽しさなどを分かり 合おうとする。</b>	鑑賞カード 行動観察 (発言)

## 7 本時の展開

### (1) 本時の目標

○自分だけの『どこでもドア』の制作に意欲を持つとともに、作りたい世界について、自分の夢や憧れなどを膨らませ、構想することができる。

### (2) 観点別評価規準

造形への関心・意欲・態度

自分の表したい世界を、大まかな見通しをもって、進んで表現しようとしている。(ア)

発想や構想の能力

自分の夢や憧れを基に、ドアの向こうの世界を楽しく発想し、自分の表したい世界を構想しようとしている。(イ)

(3) 準備物

指導者・ 参考作品，お試しコーナーの材料，画用紙，振り返りカード等  
児 童...筆記用具

8 学習の展開

学習活動・内容	教師のはたらきかけ	評価規準・評価方法
<p>1 教師の提示した『どこでもドア』の向こう側の世界を想像しながら，意欲的に自分の夢や憧れなどの思いを膨らませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行ってみたい世界</li> <li>・空想の世界，夢の世界</li> <li>・あったらいいなという憧れの世界</li> <li>・出会いたい人や生き物のいる世界</li> </ul>	<p>1 活動の意欲付けを図り，発想を広げるために，『どこでもドア』を提示し，ドアの向こうの世界を楽しく想像することができるよう，次のような発問をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「どこでもあなたの好きなところに行けるとしたら……？」（空間，場所）</li> <li>・「過去でも，未来にでも行けるとしたら…？」（時間）</li> <li>・「出会ってみたい人や生き物に合えるとしたら……？」（対象）</li> <li>・「誰も行ったことのない不思議な世界があったとしたら……？」</li> </ul>	<p>イ 自分の夢や憧れを基にドアの向こうに広がる世界を発想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動観察（発言）</li> </ul>
<p>2 『どこでもドア』の提案から各自の発想を膨らませ，「自分だけの『どこでもドア』」の構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発想した世界のイメージ</li> <li>表したい世界（空間）</li> <li>ドアの形</li> <li>その世界にあるもの（いるもの）</li> <li>・材料や色のイメージ</li> </ul>	<p>2 思いついた発想を膨らませたり，温めたりなどしながら，具体的な制作につなげるために，次のような方法を提示し，選択できるようにする。</p> <p>アイデアスケッチ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて気軽にスケッチできるように用紙を準備する。</li> <li>参考作品の鑑賞</li> <li>・参考作品は具象・抽象の別，大きさ，材料等，多様なものを用意する。</li> <li>お試しコーナーでの試行錯誤</li> <li>・実際に手にとり，試行錯誤しながら自分の表現のイメージが具体化できるようにする。</li> </ul>	<p>ア 本日分の表したい世界の制作に意欲的に取り組もうとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動観察（発言）</li> </ul> <p>ア 表したい自分の思いに応じて，表現方法を試したり，やり直したりしながら表現活動を楽しもうとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動観察（デジタルカメラ，アイデアスケッチ）</li> </ul>
<p>3 活動を振り返り，次時の見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の振り返り</li> <li>・次時の見通し</li> </ul>	<p>3 本時の活動を振り返り，次時の見通しを持つことができるように，図工カードへ次の点での記述をすすめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のめあての振り返り</li> <li>・次の時間の準備（必要なもの，用意したいもの）</li> <li>・教師への質問，要請</li> </ul>	<p>イ 表す過程で形や色，材料の組合せなどによって計画を見直し，新たな発想を加える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りカード</li> </ul>
<p>4 後片付けをする。</p>	<p>4 使ったものや教室の整理・整頓について言葉かけをする。</p>	